

笑いながら横眼で見ている若い人々を意識したとき、はっきり世代の移り変わりを感じざるを得なかった。

第3に、中軽井沢を中心とする西武系の観光開発のすさまじさを肌を感じ、躍進する日本経済の底力をここに見出したのである。西千が滝の分譲別荘地では、300坪以下には細分せず、坪3〜5万円、早い者勝ち、すぐ売切れますよ、宣伝はしていませんなどと高飛車に出られると、こんなところを買い奴に憤りさえ感ずる。一方、南軽井沢に「森と湖の国」として宣伝されているレイク・ニュータウンは、庶民的別荘地として人気を呼んでいる。ここは樹木の繁る急斜面を50〜100坪程度ずつに分譲し、すべての別荘から見晴らしのよい森と湖の風景を楽しめるようにとのことである。国土開発会社では分譲後、別荘の設計・建築、その後の管理、滞在中の生活一切の面倒など末永くおつきあいさせて頂きますという。ほかに200万ないし300万程度の建売り別荘も用意されているという。赤・青・白の屋根が新緑に映え、続々と建築が進められているニュータウンを一巡すると、身の程もわきまえず、こんなところに別荘をもちたいなあと思う。しかし一行の中から、もっと詳しく見たい、まだ売れてないところを案内してほしい、といってバスを降りる人が出たのを見ると、幻想はたちまちやぶられ、経済力の乏しい自分につくづく情なくなってしまった。

近 況

浅 井 辰 郎

「ヨーロッパに1年も居たんだから、今年はお茶大に来て外国地誌の講師をやってくれ給え」と渡辺先生におだてられ、うかうか現われたが、講義の印象調査をしたら、地理学科の学生諸嬢からは「テンポが遅い、詳しすぎる……」、他学科の方々からは「術語などもっと時間をかけて詳しく……」とほぼ同数、正反対の意見が出て弱っている所です。それにしてもカラスライドや8ミリには皆さんから「理解を大に助けるからこれからも」と賛成が非常に多く、内心大いに喜んでいるのです。「社会や人間のことも多く……」との御希望は、もちろん学期始めに示したように予定には入ってはいますが、更に努力を重ねましょう。

少し自己紹介を。大正3年静岡市に生れ、父の住地福岡に2年、小学校以来は東京。八月子で生れてから疫病、関東震災、ソ連抑留と死に損なうこと4回。だからまだ何かやるべきことが残っているのだらうと模索中。中学の修学旅行で中仙道や北海道、京大在学中には大山山麓の地理調査、網干塩田、鳥取砂丘の微気候調査、さては木原均、今西錦司氏らと内蒙古調査2ヶ月。満州国の建国大学に勤めてからは白頭山・内南洋の旅行、北シナ五台山の高山気象観測などと割合に方々を廻りました。復員後は資源科学研究所や法政大学で、東北冷害の主因である冷風「ヤマセ」をいろい

る調べてDr も戴き、灌漑水温の形成機構を自然河川で実測するため、大井川の筏に何度も乗りました。今夏も白糸の滝に大学院の学生と行き、その水と空気との熱交換量を詳しく測る予定です。あの多量の水が一秒余りで1~2℃も昇温し、一方空気は1馬力のクーラー5000台分が働いたくらい冷却しているのですから。

北ヨーロッパで会った地形学者は誰も彼もその環境に則してか、周氷河地形と取組んでいます。するとさしずめ日本の地形学者は流水地形、とくに豪雨地形でも研究すべきでないかと強く感じます。私が今さら地形をやるのは無理としても、観測資料のない昔の豪雨量を、土石流地形などから何とか推定しようというのが私の新しい念願です。外国のあちこちの図書室で少しはその材料も集めましたがこの問題はこれからです。それには豪雨と土石流の現場を実見しなければ……。それに気象衛星の写真から集中豪雨の地点を見つけ、ヘリコプターで駆けつけなければ……。もしそれが可能ならエッサ2号の電送写真を捉えるAPT装置が、秋葉原あたりのジャンクで組立てられないものかしら?……。その構造や配線はどうなのだろうか……。と、今その専門家土屋清氏の講演を聞いたり、著書「気象衛星」を読み始めたりした所です。太平洋学術会議の雑用に追われながらこんな「真夏の夜の夢」も追いかけ、自分で自分のキリ無さに呆れているのが正に偽らない「近況」です。



(P67よりつづく)

太平洋学術会議は12部門(気象・海洋・地球物理・地質・生物・農学・水産・医学・社会・人類・地理・学術情報と博物館)より成り、太平洋地域に関する科学問題の研究と平和を目的に、1920年(ホノルルで開催)以来ほぼ4年ごとに各国持ち廻りで開催されてきた。日本での開催は大正15年(第3回、赤木健先生出席、従って今回は名誉会員)以来2回目である。なお、渡辺光先生は、木内信蔵先生とともに第11回太平洋学術会議日本代表者にすいせんされ活躍されている。